＜２月定例研究会＞

平成２７年２月２１日（土）、当研究所で定例研究会が行なわれました。
午後５時から研究授業を行ない、午後５時３０分から研究協議を行ないました。

研究授業者：高橋幸恵（つばき研究所スタッフ）
テーマ　　：「基礎学習」
学習内容　：「同じの概念形成」と「形の弁別」

１．学習経過

平成２３年６月より週１回の学習を開始した。
開始から現在までの学習経過は、以下の通りである。

（１）　学習開始時の子どもの様子

平成２３年３月の体験学習では、初めての場所であったためか、入室後着席をせずに教材や室内の物を触って歩き回る、着席を促されて一旦着席をしてもすぐに立ってしまう様子が見られた。

保護者の指示は、ある程度理解して応じる様子が見られた。

（２）　学習開始時の課題

（１）の様子から、当面の課題を次のようにした。

１）　学習環境を整えながら学習に向かう態度を育てること。

２）　操作方法や因果関係がわかりやすい教材で目と手の協応動作の向上を図り、視機能と視覚認知を高めること。

（３）　現在の課題

１）形の弁別の学習

①　学習方法

○△□のはめ板と形（はめ板１枚・形２つ）を用いて、見本あわせの方法で弁別学習を行なう。
選択肢（形）を呈示するステップは、以下の通りである。

ステップ１　１対１対応
ステップ２　利き手側　後出し
ステップ３　反利き手側　後出し
ステップ４　利き手側　先出し
ステップ５　反利き手側　先出し
ステップ６　利き手側　同時呈示
ステップ７　反利き手側　同時呈示

②　経過

学習開始当初、正誤ともに赤色の「○と△で正選択肢が○」と、「○と で正選択肢が○」の組み合わせは難しい様子が見られたが、「赤色の○と無着色の△で正選択肢が○」と、正誤ともに赤色の「○と で正選択肢が○」の組み合わせは順調に学習が進んだ。

また、誤選択肢が気になったり、新規の形に惹かれたりする様子が見られた。

そこで、正誤ともに赤色で形の差異が大きい組み合わせを用いながら、次のねらいの学習を行なった。

- 形の基本である○△□に慣れ親しむ。
- 色ではなく、形の違いに注目して見本と同じものを選択すること。およびその定着化。

○よりも△に対して喜ぶ様子が見られたので、形の差異が大きい組み合わせ終了後、以下のような順序で学習を開始した。

1．　△と○で正選択肢が△
2．　○と△で正選択肢が○
3．　△と□で正選択肢が△
4．　□と△で正選択肢が□
5．　○と□で正選択肢が○
6．　□と○で正選択肢が□

選択肢をよく見る前に手が動く様子もみられたので、１から現在学習中の５に至るまで、しっかりと形を見る間をとるために呈示板を使用して形を呈示している。

１から４までは比較的順調に学習が進んだ。

５になると難しくなった様子が見られた。正選択肢と誤選択肢がより近似になったことで、これまでの見方では輪郭線の違いを弁別することが難しくなったためではないかと思われた。また、指導者も適切な援助を行なうことができなかったためではないかと思われた。

具体的には、正選択肢の後出しの呈示が続くと先出し呈示に変わった時にまちがえる、先出し呈示時に先に呈示される正選択肢に動く手を止めたことでこっちではないと思わせた、などである。

まちがいが続いたことで、教材が呈示されると嫌がるような様子が見られるようになった。

そこで現在、以下のような対応をしている。

- 選択肢を呈示するステップを、後出し→同時呈示→先出しとした。
- よりしっかりと形を見せる、伸びてくる手がすぐに届かないようにするために、後方に引くことができる呈示板にした。
- 「○と長方形で正選択肢が○」および「○と少し小さめの□で正選択肢が○」の組み合わせでも学習を行なった。

２）　同じの概念形成の学習

①　学習方法

具体物や絵カードを用いて、見本あわせの方法で弁別学習を行う。

具体物と絵カードの組み合わせによる学習の系統性は、以下の通りである。

Step1　具体物と具体物
Step2　具体物と絵カード
Step3　絵カードと絵カード　　※資料１の図を参照

②　経過

学習開始時は、様々な具体物の１対１対応のみを行なった。仕切られた箱に見本と同じものを入れて、同じものがふたつ並んだ状態を見せた。

Step1 では、様々な具体物同士で誤選択肢も用いた弁別学習を行なった。選択肢を呈示するステップは、「１）形の弁別の学習」と同様である。正誤の選択肢の組み合わせの差を徐々に少なくしていき、近似の具体物同士でも弁別できるようになった。

現在は、具体物と絵カードを用いて、Step1 から Step3 までを順に行なっている。Step1 は弁別することができた。Step2－③や Step3 のように選択肢が絵カード同士のときによく見ないで選択する様子が見られた。また、指導者の手の動きや声に敏感であるため、子どもが操作しようとする途中で指導者が手を動かしたりことばかけをしたりするとまちがえさせることがあった。

そこで現在、以下のような対応をしている。

- 絵カードを呈示するときは、絵を指さししてよく見せ、見たことをきちんと確認する。

- よく見せるために、選択肢を子どもから見て学習空間の遠い位置に呈示する。
- 形の弁別の学習と同様に、選択肢を呈示するステップを、後出し→同時呈示→先出しとした。
- 指導者自身の手の位置と動き、ことばかけの適切なタイミングと量を、自覚するように心掛けている。

<u>具体物と絵カードを用いて、これまでに行なった組み合わせ</u>

◆ 正選択肢：スプーン（持ち手がピンク＋キャラクター絵有）、誤選択肢：洗濯ばさみ（薄緑）
※終了

◆ 正選択肢：財布（紺色＋水玉）、誤選択肢：楕円柱型の木片　※終了

◆ 正選択肢：フォーク（持ち手が黄色＋赤英字有）、誤選択肢：小サイズのしゃもじ（薄茶）
※Step2－③まで終了

3）延滞の学習

① 学習方法

２つの箱を呈示して、片方の箱におもちゃを入れる。
子どもは、おもちゃが入っているほうの箱を覚えて、おもちゃを取り出す。
学習の系統性は、以下の通りである。

1. 箱１つ
2. ふたのない箱２つ
3. 箱２つ・片方にのみ「ふた」
4. ふたのある箱２つ
5. ふたのある箱２つ・片方の箱の移動
6. ふたのある箱２つ・両方の箱の移動

② 経過

上記４の「ふたのある箱２つ」まで終了している。現在も学習中である。

4）空間概念の形成～「順序」の学習

① 学習方法

まとめて呈示された丸型を、左から順番に１個ずつ、よく見て入れる。

② 経過

丸型をはめる教材を使用して、左から順番に３個および５個入れる学習が終了した。

5）未測量の理解

① 学習方法

高低の棒がついている棒さし台と筒を用いる。棒に同じ高さの筒を入れる。

② 経過

高低の２本の学習は終了した。現在、高中低の３本の学習中である。

6）目と手の協応動作や手指の巧緻性を高める学習

洗濯ばさみで挟む、トングで掴む・入れる、線書き（縦線、横線、ななめ線）、２切片パズルなどの学習を終了した。

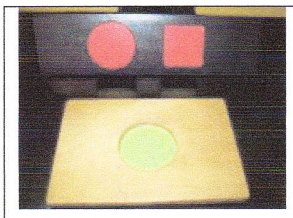
2．本時の指導

（1）学習項目・ねらい・教材

学習項目	ねらい	教材
同じの概念形成 【具体物と絵カード】	具体物と絵カードの選択肢２つを見比べて、見本と同じである絵カードを選ぶことができる。	・見本：絵カード（持ち手が黄色のフォーク） ・選択肢：絵カード（持ち手が黄色のフォーク） 具体物（木製のしゃもじ） ・マッチング板
形の弁別 【○と□で正選択肢が○】	○と□を見比べて、はめ板と同じ形の○を選んで、はめ板にはめることができる。	・はめ板：○の凹図形 ・形：○、□（両方とも赤色） ・呈示板

（２）　展開

学習項目	学習内容	学習活動	留意点
１．はじめの挨拶	①「お名前は？」と名前を聞く。 名前を一緒に言う。 ②「はじめの挨拶をします」と言う。 「はじめます」と一緒に言う。	・名前を言う。 ・「はじめます」と一緒に言う。	
２．チップを取り出す・入れる	①チップの入っている容器とチップを入れる箱を呈示する。 ②「よく見て全部入れてください。」と言う。 ③「よくできました。」と褒める。	・ふたを開けてチップを取り出して箱に入れる。 ・チップ５個すべて入れ終わったら容器を指導者に渡す。	・チップがまだ残っているのに終わりにしようとしたら、「よく見て」と言う。
３．同じの概念形成 【見本】 絵カード （持ち手が黄色のフォーク） 【正選択肢】 絵カード （持ち手が黄色のフォーク） 【誤選択肢】 具体物 （木製のしゃもじ） 	１試行目　１対１対応 ①机上に見本を呈示、絵をなぞりながら「これと同じをください。」と言う。 ②見本を後方に引く。 ③「よく見て」と言って正選択肢を呈示する。フォークの絵をなぞって注目させる。 ④見本を指さしして「これと同じをください。」と言う。 ⑤「これはフォーク」「これもフォーク」「これと」「これは」「同じ」と一緒に指さししながら確認する。 ⑥「よくできました。」と褒める。 ２試行目　利き手側先出し ①机上に見本を呈示、絵をなぞりながら「これと同じをください。」と言う。 ②見本を後方に引く。 ③「よく見て」と言って正選択肢を利き手側に呈示する。「まだだよ」と言う。 ④誤選択肢を反利き手側に呈示する。 ⑤見本を指さしして「これと同じは」、正選択肢を指さしして「こっち」と言う。 ⑥「これはフォーク」「これもフォーク」「これと」「これは」「同じ」と一緒に指さししながら確認する。 ⑦「よくできました。」と褒める。 ３試行目　反利き手側先出し 呈示する位置のみ変えて、２試行目と同様に行なう。 ４試行目　利き手側先出し ①机上に見本を呈示、絵をなぞりながら「これと同じをください。」と言う。 ②見本を後方に引く。 ③「よく見て」と言って正選択肢を利き手側に呈示する。「まだだよ」と言う。 ④誤選択肢を反利き手側に呈示する。 ⑤見本を指さしして「これと同じをください」と言う。 ⑥「これはフォーク」「これもフォーク」「これと」「これは」「同じ」と一緒に指さししながら確認する。 ⑦「よくできました。」と褒める。 ５試行目　反利き手側先出し 呈示する位置のみ変えて、４試行目と同様に行なう。	・見本を見る。 ・正選択肢を見る。 ・見本を見る ・正選択肢をマッチング板に入れる。 ・一緒に指さしを行なう。 ・見本を見る。 ・正選択肢を見る。 ・誤選択肢を見る。 ・見本を見て、正選択肢を見る。 ・正選択肢を選択してマッチング板に入れる。 ・一緒に指さしを行なう。 ・見本を見る。 ・正選択肢を見る。 ・誤選択肢を見る。 ・見本を見る。 ・正選択肢を選択してマッチング板に入れる。 ・一緒に指さしを行なう。	・１試行毎に子どもの姿勢を整えてから開始する。 ・見本を見たことを確認する。 ・正選択肢を見たことを確認する。 ・見本を見たことを確認する。 ・見本を見ているか確認する。 ・正選択肢を見たことを確認する。 ・先出しの正選択肢を見て手が動いたら「そうだね」「まってね」と言う。手が伸びてしまったら手は止めない。 ・誤選択肢を見たことを確認する。 ・見本を見ているか確認する。 ・正選択肢を見たことを確認する。 ・先出しの正選択肢を見て手が動いたら「そうだね」「まってね」と言う。手が伸びてしまったら手は止めない。 ・誤選択肢を見たことを確認する。 ・正誤ともに呈示した後に、誤選択肢に手が動きそうになったら正選択肢を指さしして「こっち」と教える。
４．線描き 白抜きＬ字形の用紙 （上横線→右縦線）	① 用紙を呈示する。 ② 「ゆびでなぞるよ」と言う。 ③ 鉛筆を渡す。 ④ 始点では「ここから」、終点で「止まる」とことばかけを行ない、軽く手を添えて援助する。 ⑤ 「上手に書けたね」と褒める。	・指でなぞる。 ・鉛筆を持って、左手で用紙を押さえる。 ・ことばかけを受けながら書く。	・「ゆっくり」のことばかけを行なう。
５．形の弁別 １サイクル目 【正選択肢】 ○ 【誤選択肢】 □	１試行目　１対１対応 ①はめ板を呈示する。 ②凹図形のふちを「ぐるぐるぐる、まる」と言いながら一緒になぞる。 ③呈示板に正選択肢を呈示する。 ④はめ板を指さしして「これと同じをください。」と言う。 ⑤はめ板にはめられた形の輪郭線を「ぐるぐるぐる、まる」と言って一緒になぞる。 ⑥「よくできました。」と褒める。	・はめ板を見る。 ・凹図形のふちを一緒になぞる。 ・正選択肢を見る。 ・はめ板を見る。 ・正選択肢をとって、はめ板にはめる。 ・形の輪郭線を一緒になぞる。	・１試行毎に子どもの姿勢を整えてから開始する。 ・正選択肢を見たことを確認する。 ・はめ板を見たことを確認する。

	2試行目　利き手側後出し ①はめ板を呈示する。 ②凹図形のふちを「ぐるぐるぐる、まる」と言いながら一緒になぞる。 ③呈示板上に、誤選択肢を反利き手側に呈示する。 ④呈示板上に、正選択肢を利き手側に呈示する。 ⑤はめ板を指さしして「これと同じをください。」と言う。 ⑥「よくできました。」と褒める。 3試行目　反利き手側後出し 呈示する位置のみ変えて、２試行目と同様に行なう。	・はめ板を見る。 ・凹図形のふちを一緒になぞる。 ・誤選択肢を見る。 ・正選択肢を見る。 ・はめ板を見る ・正選択肢をとって、はめ板にはめる。	・選択肢を見たことを確認する。 ・はめ板を見たことを確認する。 ・選択肢をよく見ないときは「よく見てね」とことばかけをする。 ・先出しの誤選択肢を見て手が動いたら「まだだよ」と言う。後出しの正選択肢を呈示後すぐに指さしして「こっち」と教える。 ・正誤ともに呈示した後に、誤選択肢に手が動きそうになったら正選択肢を指さしして「こっち」と教える。
6．パズル３切片 赤ちゃんの顔のパズル	①「赤ちゃんの顔のパズルをします。」と言ってパズルを見せる。 ②１片のみ枠に入っている状態で、他の２片を呈示する。	・パズルを見る。 ・呈示された２片を、よく見て１片ずつ入れる。	・入れる場所に迷うときは指さしして教える。 ・逆さまに入れようとするときは「よく見て」と言う。
7．形の弁別 ２サイクル目 【正選択肢】 ○ 【誤選択肢】 □	1試行目　１対１対応 ①はめ板を呈示する。 ②凹図形のふちを「ぐるぐるぐる、まる」と言いながら一緒になぞる。 ③呈示板上に正選択肢を呈示する。 ④はめ板を指さしして「これと同じをください。」と言う。 ⑤はめ板にはめられた形の輪郭線を「ぐるぐるぐる、まる」と言って一緒になぞる。 ⑥「よくできました。」と褒める。 2試行目　利き手側同時 ①はめ板を呈示する。 ②凹図形のふちを「ぐるぐるぐる、まる」と言いながら一緒になぞる。 ③呈示板上に、正選択肢は利き手側に、誤選択肢は反利き手側に、同時に呈示する。 ④はめ板を指さしして「これと同じをください。」と言う。 ⑤「よくできました。」と褒める。 3試行目　反利き手側同時 呈示する位置のみ変えて、２試行目と同様に行なう。	・はめ板を見る。 ・凹図形のふちを一緒になぞる。 ・正選択肢を見る。 ・はめ板を見る。 ・正選択肢をとって、はめ板にはめる。 ・形の輪郭線を一緒になぞる。 ・はめ板を見る。 ・凹図形のふちを一緒になぞる。 ・正選択肢と誤選択肢を見比べる。 ・はめ板を見る ・正選択肢をとって、はめ板にはめる。	・１試行毎に子どもの姿勢を整えてから開始する。 ・正選択肢を見たことを確認する。 ・はめ板を見たことを確認する。 ・選択肢を見比べたことを確認する。 ・選択肢をよく見ないときは「よく見てね」とことばかけをする。 ・はめ板を見たことを確認する。 ・正誤ともに呈示した後に、誤選択肢に手が動きそうになったら正選択肢を指さしして「こっち」と教える。
8．好きな型はめの選択	①　絵の異なる２つの型はめを呈示する。 ②　選んだ方を渡す。 ③　一緒にはめる。	・よく見て好きな方を選ぶ。 ・一緒にはめる。	・両手で２つとも選択しようとするときは「ひとつだけだよ、よく見て」と選択を促す。
9．おわりの挨拶	①「終わりの挨拶をします」と言う。 ②「終わります」と一緒に言う。	・「終わります」と一緒に言う。	

３．研究協議

定例研究会には、特別支援学校の先生方、障害者の支援施設の職員の方など今回もたくさんの方の参加がありました。指導者から「同じの概念形成」の学習では、具体物同士の組み合わせから具体物と絵カードの組み合わせの学習を経て、絵カード同士の組み合わせの学習に入れるようになったこと。「形の弁別の学習」では、形の差異が大きい組み合わせから始まり基本図形の弁別学習の最終段階に入れるようになったこと。これらの段階に入れるようになった経緯には呈示の工夫、理解を促すためのことばかけの工夫あったとの説明がありました。不用意な指導者のことばかけや呈示する際の手の動きが誤学習に結びつけてしまうことに気づけたとの話もありました。対象のお子さんは基礎学習で、目や手の使い方がまだ難しく、学習態勢を形成する段階の方だったので、参加者からは基礎学習の課題の内容や指導の方法、良い学習環境をどう作っていくのなどについて、多くの質問がでました。主な内容は以下の通りです。

・基本図形を教える際の適切なことばかけについては、その形の特徴をとらえたことばを用い、毎回変えない。

・「同じの概念形成」では　組み合わせ内容の次元、組み合わせの内容の差異、選択肢の数などの課題の内容を上げていき視覚の質を上げていく。

・パズルの構成では、全体像を見てはめることが大事であるので切り方が直線である方が良い。またお子さんによ

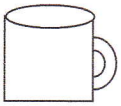
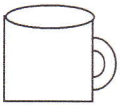
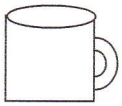
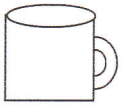
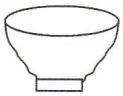
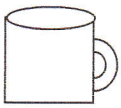
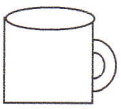
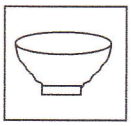
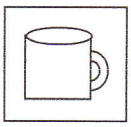
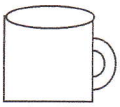
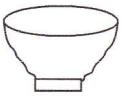
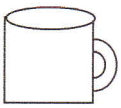
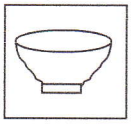
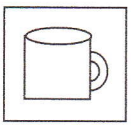
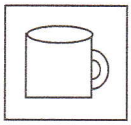
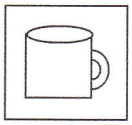
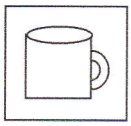
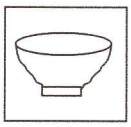
ってわかりやすいのは写真か、実物に近い絵か、抽象的な絵かを吟味することが必要である。切片の数、切り方についてお子さんの課題の段階や題材によって考えていかなければない。

・物との関係を学習している段階では、見ることがまだ難しく、物をなげる、物を口に持っていく。始めの段階でそのような行動を起こさせないような環境づくりを行い、「見てね」「見たね」などのことばかけを行いながら、見本の行動を示したり、一緒に援助したりすることが大事であること。

理事長からは、より良い学習環境を作るためには①教室環境　②言語環境　③視覚環境に配慮が必要であるとの話がありました。感想では、「ことばかけや　接し方がとてもよかった。どのお子さんもやさしい指導者に巡り合えるといいですね」という励ましのことばをかけていただきました。

今回も実りある研究会を行うことが出来ました。ありがとうございました。

資料１

		見本	正選択肢	誤選択肢
学習開始時		具体物 	具体物 	
Step1 具体物と具体物		具体物 	具体物 	具体物 
Step2 具体物と絵カード	①	具体物 	具体物 	絵カード 
	②	絵カード 	具体物 	具体物 
	③	具体物 	絵カード	絵カード 
	④	絵カード 	絵カード 	具体物
Step3 絵カードと絵カード		絵カード 	絵カード 	絵カード